

佳作

戦争の話聞いて

埼玉県伊奈町立南小学校四年 染谷 美桜

おじいちゃん、おばあちゃんはたくさんのお話を聞いていたので、この夏休みにいろいろなお話を聞きました。その中でも一番心に残ったのが戦争のころのことです。話の中には、こわいこと、悲しいこと、今の私たちの生活では想像もつかないほど大変なことがたくさんありました。

一つめは、食べ物のことです。そのころ食べ物といえば、いも、うどん粉、かぼちゃ、とうもろこし等で、お米などはめったに口にすることができなかつたそうです。今は、毎日白いごはんも肉や魚、野菜、何でも食べられます。それがあたりまえになっていて、残してむだにしてしまったりします。話を聞いて、いろいろな食べ物が食べられることに感じやし、むだにしないようにしようと思いました。

二つめは、学校や家での生活です。学校では、勉強はほとんどしないで、ほうし作業をしたり、てきが地上におりてきたときのために、女の人には、なぎなたで

「えい。やあ。」
と、わら人形をつく練習をしたりしたそうです。家に帰ってから、小さい兄弟の世話をしたり、家の手伝いをしたりして、自分の自由になる時間はなかつたそうです。

「昔は、家では、子どもも一人の働き手として数えられていたんだよ。遊んではかりいられなかつたんだよ。」

とおばあちゃんが話してくれました。私ももつとお手伝いをしなくちゃいけない。でも勉強しなくていいのはいいなと思いましたが、

「今の時代に生まれていたら、ちゃんと勉強をして、高校にも大学にも行って、学校の先生になりたかつたな。」



としみじみおばあちゃんが話すのを聞いて、そう思ったことを申しわけなく思いました。勉強して努力をすれば何にでもなれる自分は幸せなんだと思えました。

最後に一番こわくて心に残ったのは、東京大空しゅうのお話です。アメリカのB 29という飛行機が百何十機もやってきて、ばくだんを落としたりのだそうです。一面やけ野原になり空がもえているかのように真っ赤になったそうです。おじいちゃんとおばあちゃんは防空ごうに逃げこんで助かりましたが、この空しゅうでおじいちゃんは、小さいころから仲良くしていたお友達を亡くしました。おばあちゃんは、住んでいた家ももえてなくなってしまう。こんなにこわくておそろしいことにたえて生きてきたおじいちゃん、おばあちゃんはすごいと思います。おじいちゃん、おばあちゃんがいてくれたおかげで今、私が生きていられるので、「ありがとう」と言いたいです。

戦争のころとはちがいが、今私たちは、好きな物を食べたり、好きなことをしたり、夢を持っていきます。だから、自分のできることを一生けん命やっつて、一生けん命生きていきたいと思いました。